

今週のビルマのニュース 2009年2月20日号【0907号】

今週の主なニュース：NLDが改めて対話再開を要請

・国民民主連盟(NLD)は17日に特別声明を発表し、軍政と民主化勢力に政治対話をただちに再開するよう促した国連事務総長の呼びかけ(5日付)に賛成すると改めて表明した。またNLD書記長のアウンサンスーチー氏が軍政側の連絡担当相との会合を拒んだという軍政側の主張について「事実と異なる」とし否定した(17日付NLD特別声明2/12/09)。

・軍政は13日、国民民主連盟(NLD)のティンウー副議長(82)の自宅軟禁措置を1年間延長した。氏はNLD書記長のスーチー氏と同様、2003年5月末に逮捕されて以来拘束されている(13日付APほか)。

・国連のキンタナ人権特別報告者が14~19日に7か月ぶりにビルマを訪問した。カレン州パアンなどの刑務所で政治囚数人と面会し、首都ネピドーで軍政高官と会った。アウンサンスーチー氏や軍政トップ・タンシュエ将軍とは会えず、タイなどへの漂着が続いているロヒンギャ民族が住むアラカン(ラカイン)州にも入れなかった。キンタナ氏は「人権状況の改善は見られない。軍政が国連の勧告を聞き入れること望む」と述べた(19日付ロイターほか)。

・ラングーン管区裁判所が先週、収容されている人気コメディアンザガナー氏の刑期を24年間減らした。ザガナー氏は昨年6月、サイクロン被災者救援活動を行い逮捕され、11月には45年、さらに12月には14年の禁固刑判決を宣告されていた(17日付DVBほか)。またタイに拠点を置く民主化団体と接触したとして逮捕され26年の禁固刑判決を宣告された活動家2人の刑も16年ずつ減刑された(18日付ミジマ)。このうち1人ケイティアウン氏は今年1月に刑務所内で流産している。

その他：クリントン米国務長官が来日

・クリントン米国務長官が16日から来日。17日に東京大学で開かれたタウンミーティングでビルマ政策について学生からの質問に答え、(経済制裁を中心とした)ブッシュ前政権の政策の見直しを進めていることを明らかにし、「ビルマ市民をもっと効果的に助けるための策を模索している」と述べた(18日付朝日新聞ほか)。また17日夜に開かれた麻生首相主催の夕食会でも首相とビルマ問題について意見交換したとのこと(17日付外務省)。

ビルマへの政府開発援助(ODA) 約束状況など
新たな発表はなし

イベントなど

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクション - 国連事務総長に対し、一刻も早くビルマを訪問し、スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動(国連大学前、19~20日15~16時)

・日本ビルマ救援センター 月例ビルマ問題学習会 宇田有三「武装抵抗闘争60周年を迎えたカレン民族同盟(KNU)の今」(大阪ボランティアセンター、20日19時~)

・ビルマ市民フォーラム例会 外国人労働者は今... 在日ビルマ人・外国人労働者のおかれている状況について(池袋・ECOとしま8階、21日18時~)

・新 拓生 写真展『黙殺の視線 - Shan state of Burma』(大阪ニコンサロン、3月5日~11日)

・ドキュメンタリー「ビルマ、パゴダの影で」水戸上映会 アムネスティ水戸グループ主催(水戸市あむねすみと2F、3月8日13時半開場、14時開演)

・第3代国連事務総長ウ・タント生誕100周年記念祝典 BDA・AaharaSazaungほか主催(みらい座いけぶくろ(豊島公会堂)、3月8日17時半~)

春秋社より新刊のお知らせ~アラン・クレメンツ著「ダルマ・ライフ - 日々の生活に"自由"を見つける方法」。米国人の著者はビルマで得度し僧になった。ビルマの状況に新たな角度から光をあてる一冊。四六判/372頁/定価(本体2500円+税)

「オルタ」2009年1・2月号(特集「恐慌前夜-世界はいかに再編されていくのか?」)に秋元由紀「ビルマ~天然ガス開発と日本の関与」が掲載。

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ

ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165